



これからの社会の担い手を育成し、レリバンス (relevance: 学ぶ意味や価値の実感)につなげる 社会科授業の開発

教育学部

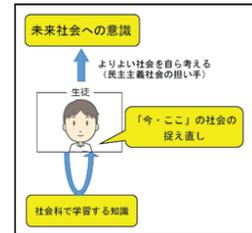
教育領域

准教授

大和田 俊

研究シーズの概要

皆さんは学生時代の社会科の授業にどんな印象をもっているのでしょうか。「なくよウグイス、平安京(794年)」「ひとよむなしい応仁の乱(1467年)」などの語呂合わせで年号を覚えた人も少なくないと思います。このように、社会科は「暗記科目」とされがちで、知識を得ること自体が目的化しやすい傾向があります。しかし本来、社会科はその発足以来、民主主義社会の担い手を育てることを目的としている教科です。ところが、近年の若者に関する国際比較の調査結果(下のグラフ(一部))を見ると、社会科がその本来の目的を十分に達成しているとは言い難い状況にあります。



(こども家庭庁「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査(令和5年度)」より作成)

では、社会科がその本来の目的を果たしていくためにはどうすればいいのか。その鍵は、社会科で学習する知識を「目的」ではなく「手段」として捉えることだと考えています。つまり、社会科で学ぶ、世界や日本の地域の特徴、過去の歴史、現代の制度や仕組みなどの知識を「鏡」とすることで、自分が生きている「今・ここ」の社会を捉え直していくということです。そうすることで、子どもたちは学んだ知識と自己とのつながりを見だし社会科を学ぶ意味や価値を実感(レリバンス: relevance)するとともに、未来に向けて「今・ここ」の何を改善し、何を維持していくべきなのかを自ら考える民主主義社会の担い手へと育てていくのではないかと考えています。

このような構想のもと、例えば中学校社会科では次のような授業を開発し、実践してきています。

	○単元 主な発問「 」	「今・ここ」の社会を捉え直す視点
地理的分野	○アメリカ合衆国の農業 「アメリカの農業と日本の農業では、どちらが『豊か』な農業か?」	「豊かさ」とは何か? (生産性か持続可能性か)
歴史的分野	○近世 「四十七士を助命にするか? 厳罰にするか?」	「平和」をどう維持するか? (新体制の維持と旧社会への決別)
公民的分野	○裁判員制度 「もしあなたが被告なら、裁判官による裁判と裁判員裁判のどちらを受けたいか?」	「公正」とは何か? (民主性か専門性か)
	○資本主義経済 「発展途上国として、多国籍企業誘致のための経済特区を設置するか? しないか?」	「資本主義経済」は何をもたらすのか? (経済発展か主権か)

【利用が見込まれる分野】主権者教育、消費者教育、金融・金銭教育における授業開発、探究学習・PBL(課題解決型学習)への協力、教材開発・教育コンテンツの提供

研究者プロフィール

大和田 俊 / オオワダ シュン



メールアドレス owada.shun@kagawa-u.ac.jp

所属学部等 教育学部 教育領域

職位 准教授

学位 修士

研究キーワード レリバンス、主権者教育、市民性育成教育、社会科教育、歴史教育

本研究に関するお問い合わせは、香川大学産学連携・知的財産センターまで

問い合わせ番号: ED-25-004

直通電話番号: 087-832-1672

メールアドレス: ccip-c@kagawa-u.ac.jp